

機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(案)

背景と目的

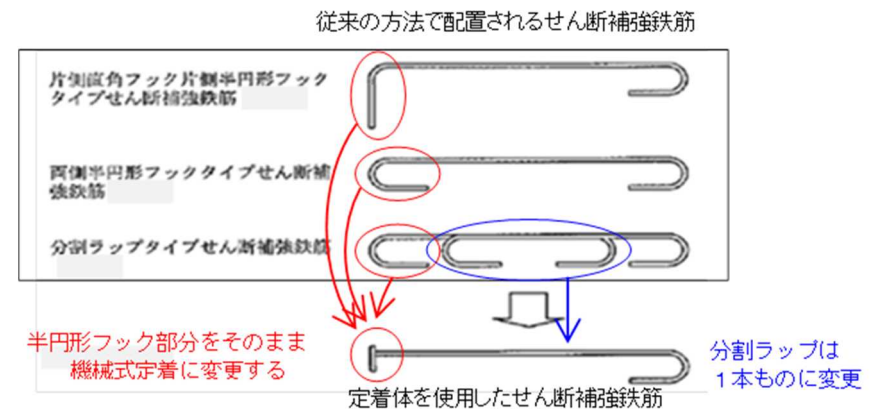
鉄筋コンクリート構造物の配筋施工が困難

高密度配筋のケースなど、鉄筋加工組立が生産性向上を阻む場合有り
熟練工の不足、鉄筋組立時の負担解消の必要性

機械式鉄筋定着工法導入による施工効率の向上

端部フックを機械式定着体とすることにより、鉄筋組立を容易にできる。

機械式定着鉄筋工法適切に活用
するためのガイドラインを整備し、
一般に広く普及できるようにすべき



機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(案)策定

機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(案)

ガイドラインの骨子

1. 適用範囲の明確化

- ・使用頻度が高いと思われる, せん断補強鉄筋・横拘束筋を対象
- ・建設技術審査証明等により, 公的に性能が確認された工法を対象

2. 用途の明確な区分(下記の2種)

- ・せん断破壊防止のために用いるせん断補強鉄筋用途
- ・耐震性能向上のために用いる横拘束筋用途

3. 用途に応じた適用性の判断方法を提示

- せん断破壊防止のために用いるせん断補強鉄筋用途の場合
 - ・機械式定着鉄筋の引張強度, 引抜き強度, せん断強度の確認*)
 - ・機械式定着鉄筋の径, 種類の確認
- 耐震性能向上のために用いる横拘束筋用途の場合
 - ・上記に加え, じん性の確認

機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(案)

【機械式鉄筋定着工法導入の効果(事例)】

- 構造物の規模などケースによるが、機械式鉄筋定着工法導入により鉄筋工数、工期とも平均的に1割程度、削減可能

